

標準予防策ってなんだろう？ part 1

「感染症の有無にかかわらず「血液、体液、分泌物（汗を除く）などのすべての湿性生体物、粘膜、欠損した皮膚」を介する微生物の伝播リスクを減らすため、すべての患者様や場面に適応される医療機関での感染予防策である。」（院内感染マニュアル「2. 一般的予防策」より抜粋）

上記のように、標準予防策は「すべての患者様や場面」に用いる感染症対策です。「患者様→医療者」、「患者様→医療者→他患者様」というような、感染の拡大を防ぐために行います。医療者を守るため、そして患者様を守るために必要不可欠なのです。

さて「院内感染マニュアル」における標準予防策を簡単に紹介しましょう。

手指衛生

手指衛生には、①手洗い、②手指消毒、があります。

すべての処置後に行います。たとえ手袋をしていたとしても、はずした後に行います。手袋は決して安全なものではありません。穴が開いているものとして考えます。

① 手洗い

抗菌性液体石鹸（固形はダメ）＋流水で行います。

目に見えて汚れているとき、汚れを落とすためにまず行います。このときは、汚れを洗い流すことが重要です。



1. 流水で手を濡らす



2. 洗浄剤を手にとる



3. 手のひらでよく泡立てる



4. 手の甲・指の間を洗う



5. 指先・爪を洗う



6. 手のひら・指の間を洗う



7. 親指をねじり洗う



8. 手首を洗う



9. よくすすぐ



10. ペーパータオルでよく拭く

各手洗い場にも、手洗い手順が掲示してあります。参考にしてください。

② 手指消毒

擦式消毒薬（右図）で行います。

目に見える汚れがない場合、手洗いを省略して行います。手洗いで、菌は約 1/300 にまで減少しますが、この手指消毒で約 1/3000 まで減少します。一方、目に見える汚れがあるときに手指消毒をおこなっても、汚れに守られた菌は十分に減少しません。

1 処置につき毎回おこなう必要があります。



1. 手に取る



2. 指策を消毒する



3. まんべんなくすり込む



4. 忘れがちな指の間も



5. 手の甲を消毒する



6. 親指を消毒する



7. 手首を消毒する

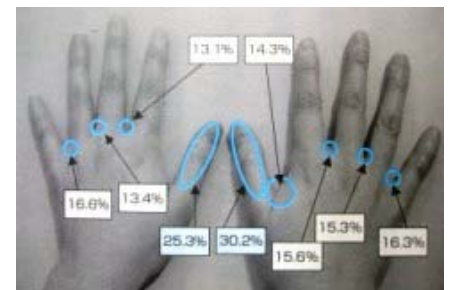


8. よく乾かす

手指消毒で塗り残しの多い部分を知っておくと良いでしょう。

右図のように、親指・指の間が多いようです。このようなところは特に意識して塗りこむ必要があるでしょう。

何度も塗りこむうちに消毒薬が蓄積してベタベタする場合があります。その場合は洗い流すひつようがあります。



手荒れ対策も重要です。手袋や手洗いで手が荒れることがあります。その場合、その皮膚バリアが弱まり感染のリスクが高くなります。また、患者様に自分の血液や体液を付着させてしまう場合も考えられます。保湿剤を使用する、優しい手洗い石鹸を選ぶ、パウダーフリーなどの手袋を選ぶ、流水温度を下げる、ひどい場合は皮膚科を受診する、傷を覆って保護する、などの対策が必要です。

ICT 新聞 16 号（21. 4）より